

# 日本 ～製造業を支える意外な品目～



経済調査部 副主任エコノミスト 星野 卓也 (ほしの たくや)

## 「清涼飲料」と「化粧品」が下支え

2016年中の鉱工業生産指数を品目別にみていくと、面白い事実が浮かび上がってくる。2016年1～10月の生産指数について、品目別の前年比寄与度をみると、低下寄与の大きい項目は、「電子部品」や「金属工作機械」、「集積回路」などであった。一方、上昇寄与の大きい項目は、「半導体・フラットパネル製造装置」のほか、「清涼飲料」や「化粧品」であった。

日本の製造業を大きく左右しているのは、自動車などの機械工業のイメージが強い。しかし、2016年はこうした非耐久消費財の生産増も、製造業全体を支える大きな役割を担ったことが確認できる(資料1)。

## 輸出の裾野は広がるか

この2品目について、生産指数の推移をみたものが資料2である。化粧品の生産については2015年ごろから明確な増加トレンドに入っており、足元でも増加傾向は途絶えていない。また、財務省の貿易統計をみると、「化粧品」

の輸出数量(16年1～10月)は前年同期比+3割の増加となっている。なかでも、中国向け輸出の増加が牽引役となった。「清涼飲料」の生産は16年入り後の急増後、頭打ち傾向にあり、何らかの特殊要因が働いた可能性もありそうだ。ただ、成長産業であることは確かで、こちらも輸出が堅調だ。「飲料」の輸出数量(16年1-10月)は前年比約1割の増加、長い目でみると5年間で約2倍にまで膨らんでいる。アジア諸国では経済成長の進展に伴って、高品質製品に対する消費者の需要が高まっているとの指摘がよく聞かれるようになった。これまで輸出の主役でなかった非耐久消費財の輸出増は、こうした需要に呼応した側面もあるのだろう。

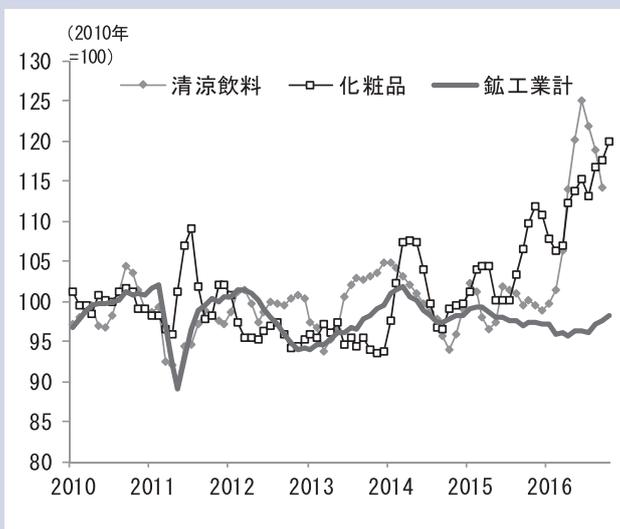
鉱工業生産指数の長期的な推移をみると、国際競争の激化、世界経済全般の減速などによって、未だにリーマンショック前の水準を回復できていない。これまで製造業の主役ではなかった品目において輸出の裾野を広げられるかどうかは、日本の製造業復活のためのひとつの鍵なのではないか。

資料1 16年1～10月の品目別生産指数の前年比寄与度

上位5品目	
半導体・フラットパネル製造装置	+0.41 ppt
清涼飲料	+0.28 ppt
化粧品	+0.23 ppt
船舶・同機関	+0.18 ppt
乗用車	+0.12 ppt
下位5品目	
土木建設機械	-0.15 ppt
トラック	-0.16 ppt
集積回路	-0.17 ppt
金属工作機械	-0.20 ppt
電子部品	-0.43 ppt

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

資料2 清涼飲料と化粧品の生産指数(季節調整値/3ヶ月移動平均)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」